

■ 編集委員

池淵 研二* (委員長)

赤塚 俊隆* 伊崎 誠一* 小山 勇* 名越 澄子* 仁科 正実 町田 早苗 松下 祥*

渡辺 修一* Chad L Godfrey (*Associate Editor 兼任, 五十音順)

■ Associate Editor

池田 正明 太田 敏男 永井 正規 (五十音順)

■ 編集後記

この冬はエルニーニョ現象のためらしく暖冬のうわさがかしましい。世界ニュースではある地域では大洪水、竜巻が起こっているとのこと。日本の国内では豪雪地域の積雪量が半減したようだ。また季節外れの開花報道。特につつじ、ひまわりなど5月、7月の花が12月に開花したことにはびっくりさせられた。そうそう、ドイツのある町では桜並木が満開となり花粉が飛び散っているとか。

毛呂界限で私が見つけた暖冬の証拠は、蠟梅の開花。今、毛呂の大学でほぼ東館が完成して開院を間近に控えているが、その前の県道を鎌北湖への分岐へ向かい錬成館を少し超えたところで庭に蠟梅の木が1本ある。12月20日頃に満開になっているのを発見してしまった。毎年開花する時期を正確に記録してこなかったが、長瀨の宝登山の山頂の蠟梅は2月頃が見頃と覚えているので、相当早い開花であったと思われる。鎌北湖への交差点を少し過ぎたあたりの畑ではクリスマス前に菜の花の黄色い花を発見した。これも相当早い。11月は多少冷えたが、12月は年末休みに入るまで日中はぼかぼか感じる日が続いていた。

さてマンションの杭打ちデータの偽装、フォルクスワーゲン車の検査時システムの改造、化血研の製造文書改ざんなど耳にしたくないニュースが多い平成27年だった。その中でとても嬉しいニュースNO.1は私にとってはノーベル医学賞の受賞である。オンコセルカ症の治療薬の開発が多くの人を失明から救った、これは医学賞候補でもあり同時に平和賞の候補でもあったというニュース。以前からテレビ番組で、ある日本の会社がマラリアを伝播する蚊の吸血から住民を守るために薬をしみこませた蚊帳を開発してアフリカの国々に提供している話題、汚れた水に納豆のネバネバ成分を粉末の形で添加しかき混ぜ、水の中の汚れ成分を絡ませ沈殿除去し飲み水まで純化できる粉末薬を開発しそれをアジアの国々に無償提供をしている話、を見て感動を覚えたことがある。これらの活動も個人的にはノーベル平和賞の受賞候補として残っていて欲しいと願っている。オンコセルカ症の治療薬は地球規模で効力を発揮することに比べ、一つの会社が効果を及ぼせる範囲にはサイズの違いがあるが、近い将来に受賞して欲しいと願っている。

さて、今回発行することができる号には、新たに活動を始めたリサーチアドミニストレーションセンターの成り立ちの経緯と活動方針、今後の活動計画を紹介した総説が掲載されている。是非、ご一読願いたい。

(池淵 研二)

埼玉医科大学雑誌

<http://www.saitama-med.ac.jp/jsms/>

第42巻 第2号

編集責任者

池淵 研二

平成28年3月15日 印刷

平成28年3月31日 発行

発行所

埼玉医科大学 医学会

350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

電話 049(276)2102/2030 (直通) FAX 049(276)1964 E-mail: igakkai@saitama-med.ac.jp

郵便振替 00540-6-19727

制作

株式会社アテネデザイン

東京都港区三田1-11-19 小宮ビル2階 電話 03(3456)5741(代) <http://www.atene.co.jp>